# 2012 年度　大学のアクティブラーニング調査

■2012 年度の貴学科についてお答えください。
注）学科ではなく、専攻、コースあるいは課程ごとに記入される場合にのみ、専攻・コース・課程欄にもご記入ください。

大学名＿＿＿＿＿＿＿＿　学部名＿＿＿＿＿＿＿＿　学科名＿＿＿＿＿＿＿＿　（専攻・コース・課程＿＿＿＿＿＿＿＿）

学科の 1 年生の定員＿＿＿＿＿人　（専攻・コース・課程の 1 年生の定員＿＿＿＿＿人）

学科設置年度　西暦＿＿＿＿＿年度　（専攻・コース・課程設置年度　西暦＿＿＿＿＿年度）

■ご回答いただいた方についてお答えください。

<table>
<tr><td rowspan="2">ご回答者</td><td>所属</td><td></td><td>(フリガナ)</td><td></td></tr>
<tr><td>役職</td><td></td><td>お名前</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">ご連絡先</td><td>TEL</td><td></td><td>FAX</td><td></td></tr>
<tr><td>e-mail</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>大学住所<br>(番地まで)</td><td colspan="4">〒</td></tr>
</table>

※　ご記入いただいた個人情報は、ご回答内容に関する問い合わせ、及び、調査報告書の発送、及び、今回調査報告に関する案内のためのみに使用いたします。

## 本調査で対象とする科目（対象科目を赤字で表記）　※　2012 年度のカリキュラムが対象

- 一般教育科目
  - 外国語、体育および情報（コンピュータ）リテラシー以外の科目でアクティブラーニングを含む科目
  - 外国語、体育および情報（コンピュータ）リテラシー以外の科目でアクティブラーニングを含まない科目
  - 外国語、体育および情報（コンピュータ）リテラシー科目
- 専門科目
  - 講義
    - アクティブラーニングを含まない講義（座学）
    - アクティブラーニングを含む講義
  - 演習
  - 実験・実習
  - 専門ゼミ・専門研究
    （双方向、少人数で行われ専門研究につながる科目、卒業論文および卒業研究も含む）

＜除外する科目＞
ａ．就業支援科目は除きます。
2011 年４月から義務化された社会的・職業的自立に関する指導等には、面接指導、履歴書の書き方、資格取得講座などの「就業支援科目」と、学生の職業観、勤労観を育むことを目的としたキャリア形成支援に関わる取り組みなどの「キャリアデザイン科目」があります。このうち、「就業支援科目」は調査対象から除外してください。
ｂ．初年次ゼミに関する質問以外では、他学部や全学共通組織が開講している科目は除外してください。

## 本調査で対象とするアクティブラーニング科目

| | |
|---|---|
| 「講義」科目 | 「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの５つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち延べ半数以上で実施されている。 |
| 「演習」科目および「実験・実習」科目 | 「グループワーク」、「ディベート」、「フィールドワーク」、「プレゼンテーション」、「振り返り」のアクティブラーニングの５つの形態のうちのいずれかが、全開講回数のうち延べ半数以上で実施されている。 |

## 本調査におけるアクティブラーニング科目の目的別分類とその定義

次頁からの設問では、貴学科のアクティブラーニング科目を下記の分類ごとにご記入ください。
例えば、実験などで“専門知識の定着”と“課題解決”の両方を目的とした科目がある場合、比重が最も大きいいずれかの分類にご記入ください。

- アクティブラーニング科目
  - 専門知識を活用したアクティブラーニング科目
    - 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目
      - 専門知識を活用した、ＰＢＬ注) やモノづくりのような創成型授業などの科目　→設問２）
      - 専門ゼミ・卒業論文・卒業研究　→設問３）４）
    - 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目
      - 専門知識の定着を目的とした、ケーススタディ、実験、演習・実習などの科目　→設問６）
  - 専門知識を活用しないアクティブラーニング科目
    - 初年次ゼミ（他学部や全学共通組織などの別組織が提供している科目を含む）
      - 初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目　→設問１）
    - ２年次以降で専門知識を活用しないアクティブラーニング科目
      - ２年次以降に配当された、専門知識を活用せず、自己発見、モノづくり、社会見学、スタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）修得などを目的とする科目

注）PBL（project/problem based learning）とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。

# 1)-1　初年次ゼミ　全学共通組織提供科目

●共通教育センターなどの全学共通組織が提供している初年次ゼミ科目について、以下の表に概要とアクティブラーニングへの取り組みをご記入ください。
●「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする、双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。

※　配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。

ＳＡ：２年生以上の学部生　ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

| 全学共通組織が提供する初年次ゼミの科目名<br>※　「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。 | 目的と内容<br>（50 字以内） | 必修／選択<br>貴学科では、必修科目ですか？選択科目ですか？<br>※該当するものに✔ | | 必修／選択<br>⇒選択科目の場合 | | 配置セメスター | | 科目に含まれているアクティブラーニングの形態<br>※各形態について、以下の頻度を目安に。3 つの選択肢から 1 つ選択して○で囲んでください。<br>頻度「多」：基本的に毎回の授業で実施<br>頻度「中」：授業 2～3 回に 1 回程度で実施 | | | | | | 教員のコメントを記入したレポート返却の有無<br>※レポートを課さない場合、あるいは把握できない場合は記入しないでください。 | | | | 科目担当教員数 | →複数の教員が担当する場合、共通化しているものはありますか？<br>※以下の取り組みに該当するものがあれば✔。 | | | | ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？<br>※該当するものに✔。開講講座数が全 1 講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | 履修率（x%）<br>※貴学科の学生の何%が履修しますか？該当する学科内での履修率を✔してください。 | | 前期 | 後期 | グループワーク | ディベート | フィールドワーク | プレゼンテーション | 振り返り | 授業時間外学習（宿題） | コメント+返却必須 | 返却必須 | 返却は教員裁量 | 返却しない | | 共通シラバス | 共通テキスト | 共通テスト | 共通評価基準 | 全講座で導入 | 一部講座で導入 | 導入していない |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | |

**注）ご回答は添付の CD-R のデータをご利用いただき、e-mail にてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください。**

## 1)-2　初年次ゼミ　学部・学科　提供科目

●全学共通組織ではなく、学部・学科が提供している初年次ゼミ科目について、以下の表に概要とアクティブラーニングへの取り組みをご記入ください。
●「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。

※　配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。

ＳＡ：２年生以上の学部生　ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

| 学部・学科が提供する初年次ゼミの科目名<br>※　「初年次ゼミ」とは、初年次に配当されスタディスキル（レポートの書き方、文献探索など）や能動的な学びへの態度転換を目的とする双方向、少人数で行われる演習などの科目のことです。 | 目的と内容<br>（50 字以内） | 必修／選択<br>必修／選択<br>※該当するものに✔ | | 必修／選択<br>⇒選択科目の場合 | 配置セメスター | | 科目に含まれているアクティブラーニングの形態<br>※各形態について、以下の頻度を目安に。3 つの選択肢から１つ選択して○で囲んでください。<br>頻度「多」：基本的に毎回の授業で実施<br>頻度「中」：授業 2～3 回に１回程度で実施 | | | | | | 教員のコメントを記入したレポート返却の有無<br>※レポートを課さない場合、あるいは把握できない場合は記入しないでください。 | | | | 開講講座数（クラス数） | 1クラスあたりの学生数 | 科目担当教員数 | →複数の教員が担当する場合、共通化しているものはありますか？<br>※以下の取り組みに該当するものがあれば✔。 | | | | ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？<br>※該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | 履修率（x%）<br>※学生の何%が履修しますか？該当する学科内での履修率を✔してください。 | 前期 | 後期 | グループワーク | ディベート | フィールドワーク | プレゼンテーション | 振り返り | 授業時間外学習（宿題） | コメント+返却必須 | 返却必須 | 返却は教員裁量 | 返却しない | | | | 共通シラバス | 共通テキスト | 共通テスト | 共通評価基準 | 全講座で導入 | 一部講座で導入 | 導入していない |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | 多・中・少 | | | | | | | | | | | | | | |

**注）ご回答は添付の CD-R のデータをご利用いただき、e-mail にてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください。**

## 2)- 1　専門知識を活用し、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目　学部・学科　提供科目

①専門知識を活用し、課題解決を目的としたアクティブラーニングについて、以下の表に概要をご記入ください。

- 「課題解決を目的としたアクティブラーニング科目」とは、専門知識を活用して、ＰＢＬやモノづくりのような創成型授業などに取り組む科目のことです。PBL（project/problem based learning）とは、課題発見・解決型学習のことで、学習者が自ら課題を発見し、その解決を図ることを通して学びを深めるような学習方法のことです。
- 「専門知識を活用して」と定義しているため、１年次の科目は対象としていません。学習意欲の向上や、能動的な学びへの態度転換などを目的とした１年次のアクティブラーニング科目については、1)の設問にご回答ください。
- 専門ゼミ・専門研究・卒業論文・卒業研究については 3)、4)の設問にご回答ください。

ＳＡ：２年生以上の学部生　ＴＡ：大学院生
ファシリテータ：単なるプリント配布や回収などの事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスも行って授業進行を補佐するような人。

【記入欄】

| 配置セメスター<br>※配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。<br>※複数の学年で履修が可能な場合は、履修を推奨されている学年、あるいは履修者が最も多い学年を選択してください。 | | | | | | 学部・学科が提供する、専門知識を活用し、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目名 | 授業内容<br>(50 字以内) | 活用すべき専門知識を伝達している科目<br>※活用すべき知識を当該科目で伝達している場合と、当該科目とは別科目で伝達している場合とがあります。当該科目以外で伝達している科目があればご記入ください。なお、当該科目で伝達している場合には“同科目”と記入してください。 | 必修／選択<br>※該当する選択肢に✔。なお、学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には「選択」としてください。<br>※選択科目の場合は、卒業までに学科学生の何％が履修しますか？該当する履修率を✔してください。 | | | 開講講座数（クラス数） | 1クラスあたりの学生数 | 成績評価方法<br>※該当する選択肢に✔。複数選択可。<br>※「出席点」は対象外 | | | | 科目担当教員数 | →複数の教員が担当する場合、指導・評価の平準化の取り組みの有無<br>※以下の取り組みに該当するものがあれば✔。 | | | | ＳＡあるいはＴＡがファシリテータとして授業に関わるか？<br>※該当するものに✔。開講講座数が全１講座の場合、そこで実施していれば“全講座で導入”に✔。 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２年次 前期 | ２年次 後期 | ３年次 前期 | ３年次 後期 | ４年次 前期 | ４年次 後期 | | | | 必修 | 選択 | ⇒選択科目の場合<br>履修率 | | | レポート・報告書 | テスト・試験 | プレゼン・発表 | その他（記述） | | 共通シラバス | 共通テキスト | 共通テスト | 共通評価基準 | 全講座で導入 | 一部講座で導入 | 導入していない |
| | | | | | | | | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | x<20<br>20≦x<40<br>40≦x<60<br>60≦x<80<br>x≧80 | | | | | | | | | | | | | | |

注）ご回答は添付の CD-R のデータをご利用いただき、e-mail にてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください。

## 2)-2　専門知識を活用し、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目　学部・学科　提供科目

② 課題解決を目的としたアクティブラーニング科目間での連携、あるいは、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目と初年次ゼミ・専門ゼミ科目での連携があれば具体的にご記入ください。

**記入例）**

**・「地域実習1」は、学生グループで地域ヒアリングからテーマを設定し、解決策を考えさせる。「地域実習2」は、フィールドワークにおいて実際にその解決策を試行し、その結果をプレゼンテーションする。**

**・3年次の「企業研究」と、3・4年次の「専門ゼミ」との連携。「企業研究」では「専門ゼミ」のテーマに沿った業種・職種の企業で研修を行い、プロジェクト担当教員、ゼミ担当教員、協力企業の3者で指導、評価を行う。**

| |
|---|
| |

**注）ご回答は添付のCD-Rのデータをご利用いただき、e-mailにてご返信いただければ幸いです。**

## 3） 卒業論文・卒業研究（卒業制作、卒業設計等も含む）

チェック欄には該当する選択肢を✔してください。

| 番号 | 設　　問 | 選　択　肢 | | チェック欄 | ガイドにしたがって、ご回答ください | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 卒業論文・卒業研究はありますか？ | ある | 択一 | | ②へ | | |
| | | ない | | | □の設問に回答 | | |
| ② | 卒業論文・卒業研究がある場合、それは全員必須（卒業要件）とされていますか？ | 全員必須とされている | 択一 | | ◎の設問に回答 | | |
| | | 必須とされていない | | | ◆の設問に回答 | | |
| ③ | 卒業論文・卒業研究がある場合、論文の執筆量などの規定はありますか？規定がある場合には、選択肢に✔した上で、その下の空欄にその量規定について記述してください（自由記述）。 | 最低限の量規定がある | 択一 | | | ◎ | ◆ |
| | | ＜量規定記入欄＞ | | | | | |
| | | 量の規定は無い | | | | | |
| ④ | 卒業論文・卒業研究がある場合、その審査は誰が行いますか？ | 複数教員により審査が行われる | 択一 | | | ◎ | ◆ |
| | | 担当教員のみの審査が行われる | | | | | |
| ⑤ | 卒業論文・卒業研究がある場合、審査（評価）において、明文化された審査（評価）基準チェックシートはありますか？ | ある | 択一 | | | ◎ | ◆ |
| | | ない | | | | | |
| ⑥ | 卒業論文・卒業研究がある場合、その発表はどのように行われますか（複数回答可）？ | 卒論（卒研）発表会が行われている | 複数回答可 | | | ◎ | ◆ |
| | | 全員参加のポスターセッションがある | | | | | |
| | | 優秀論文の発表会がある | | | | | |
| | | 卒論（卒研）発表会は行われていない | | | | | |
| | ⑥-1 卒論（卒研）発表会が行われている場合、全員の口頭発表はありますか？ | 全員の口頭発表がある | 択一 | | | | |
| | | 全員の口頭発表はない | | | | | |
| | ⑥-2 卒論（卒研）発表会が行われている場合、その発表は成績に反映されますか？ | 反映される | 択一 | | | | |
| | | 反映されない | | | | | |
| ⑦ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、学科１学年の学生数を母数として、卒業論文・卒業研究に取り組む学生の割合はおよそどのくらいですか？ | 20%未満 | 択一 | | | | ◆ |
| | | 20%以上 40%未満 | | | | | |
| | | 40%以上 60%未満 | | | | | |
| | | 60%以上 80%未満 | | | | | |
| | | 80%以上 | | | | | |
| ⑧ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、執筆率を高めるために行っていることがあれば、記述ください。 | 記述 | | | | | ◆ |
| ⑨ | 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、あるいは、卒業論文・卒業研究がない場合、他に大学での学習の集大成となるような課題を課していますか。 | 授業やゼミの履修以外は特に課していない | 選択の上記述 | | □ | | ◆ |
| | | ゼミ論文、ゼミレポートなどを課している | | （執筆率 約　　%） | | | |
| | | その他（記述） | | | | | |

注）ご回答は添付の CD-R のデータをご利用いただき、e-mail にてご返信いただければ幸いです。

## 4)専門ゼミ・卒業論文・専門研究

①4 年間のゼミ科目の配置について、以下の表に概要をご記入ください。

●専門ゼミ・専門研究では、指導教官・研究室ごとにそれぞれ別科目として扱われていることがありますが、ここでは専門ゼミや専門研究そのものを１科目として記入してください。
また、専攻により履修する科目名が分かれる場合も１科目としてご記入ください。

●卒業論文、卒業研究も、一つの科目としてご記入ください。卒業論文の単位が演習に含まれる場合は、記入例を参考にご記入ください。また、理系学部において、卒業研究とは別に「輪講」などがゼミとして位置づけられている場合も、ゼミ科目としてご記入ください。

【記入例】

| 科　目　名 | | 単位数 | 必修／選択 ※該当する選択肢に✔ | | 選択科目である場合の履修率（ｘ%） ※　卒業までに学科学生の何%が履修しますか？該当する履修率を✔してください。 | | | | | 配置されているセメスター ※配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。 | | | | | | ゼミあるいは講座の開設数 | ゼミ・研究のオープン化 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目としての卒業論文・卒業研究、あるいは卒業論文・卒業研究を含む演習科目の場合は右欄に✔ | 卒論・卒研 | | 必修 | 選択 | x<20 | 20≦x<40 | 40≦x<60 | 60≦x<80 | x≧80 | ２年次 前期 | ２年次 後期 | ３年次 前期 | ３年次 後期 | ４年次 前期 | ４年次 後期 | | |
| プレ演習 | | 2 | | ✔ | | | | | ✔ | | ✔ | | | | | 10 | |
| 演習Ⅰ | | 4 | ✔ | | | | | | | | | ✔ | ✔ | | | 20 | |
| 演習Ⅱ（卒業論文を含む） | ✔ | 8 | ✔ | | | | | | | | | | | ✔ | ✔ | 20 | |
| 卒業研究 | ✔ | 8 | ✔ | | | | | | | | | | | ✔ | ✔ | 9 | ✔ |

※複数の学年で履修が可能な場合は、履修を推奨されている学年、あるいは履修者が最も多い学年を選択してください。

※ゼミ・研究の内容と成績評価について、１人の指導担当教員だけで完結するのではなく、複数の教員が関わることがあれば、✔を入れてください。

【記入欄】

| 科　目　名 | | 単位数 | 必修／選択 ※該当する選択肢に✔ | | 選択科目である場合の履修率（ｘ%） ※　卒業までに学科学生の何%が履修しますか？該当する履修率を✔してください。 | | | | | 配置されているセメスター ※配置されているセメスターに✔、通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。 | | | | | | ゼミあるいは講座の開設数 | ゼミ・研究のオープン化 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目としての卒業論文・卒業研究、あるいは卒業論文・卒業研究を含む演習科目の場合は右欄に✔ | 卒論・卒研 | | 必修 | 選択 | x<20 | 20≦x<40 | 40≦x<60 | 60≦x<80 | x≧80 | ２年次 前期 | ２年次 後期 | ３年次 前期 | ３年次 後期 | ４年次 前期 | ４年次 後期 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |

②「ゼミ・研究のオープン化」の質問で、「✔」が入った科目について、どのような場面で複数の教員が関わっているか、具体的にご記入ください。

注）ご回答は添付の CD-R のデータをご利用いただき、e-mail にてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください。

## 5） 学習成果コンテスト

※　学習成果コンテスト：単なる発表会ではなく、成果を競い、表彰や順位付けが行われるもの。

●正課の学習成果を高めることを目的にした、**大学、学部あるいは学科主催のゼミ大会、制作物のコンテスト、研究発表会などの学習成果コンテストはありますか。該当する選択肢に✔を記してください。**
　ただし、卒業論文（研究）発表会、優秀卒業論文表彰等は除きます。卒業論文（研究）発表会については、3)の設問にご記入ください。
　また、1ゼミ・1授業内で実施するもの、学外団体が主催するものは除きます。

「参加学生」には、プレゼンをする学生、プレゼンのための準備をする学生が該当します。

| 学習成果コンテスト名 | 学習成果コンテストの概要 | 対象学年 | | | | 主　催 | | | | 参加学生の割合（ｘ％）<br>※　「参加学生の割合」では、４年間を通して全学生の何％程度が参加しますか？該当する履修率の箇所に✔を記入してください。 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | １年 | ２年 | ３年 | ４年 | 大学 | 学部 | 学科 | その他<br>※直接記入 | x<20 | 20≦x<40 | 40≦x<60 | 60≦x<80 | 80≦x＜100 | x=100 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

**注）ご回答は添付のCD-Rのデータをご利用いただき、e-mailにてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください**

## ６） 専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目 学部・学科 提供科目

①専門知識の定着を目的とした、ケーススタディや実習、実験などのアクティブラーニング科目について、以下の表に概要をご記入ください。

※複数の学年で履修が可能な場合は、履修を推奨されている学年、あるいは履修者が最も多い学年を選択してください。

※学科内の一部のコースや専攻で必修としている場合には「選択」としてください。

| **配置されているセメスター**<br>配置されているセメスターに✔、<br>通期開講の場合には前期・後期の両方に✔。<br>３学期制の場合、１学期は前期、２・３学期は後期として記入してください。 | | | | | | | | **学部・学科が提供している専門知識の定着を目的としたアクティブラーニング科目名** | **必修／選択**<br>※該当する選択肢に✔ | | **選択科目である場合の履修率（ｘ％）**<br>※ 卒業までに学科学生の何％が履修しますか？<br>該当する履修率を✔してください。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １年次 | | ２年次 | | ３年次 | | ４年次 | | | | | | | | | |
| 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | 必修 | 選択 | x<20 | 20≦x<40 | 40≦x<60 | 60≦x<80 | x≧80 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

**注）ご回答は添付のCD-Rのデータをご利用いただき、e-mailにてご返信いただければ幸いです。また直接ご記入いただき、記入欄が足りない場合には当用紙をコピーし、それに記入してください。**

## 7)　アクティブラーニング以外の科目も含む全体の取り組み

### 7)-1　「講義」科目での工夫

一般的に座学で行われる「講義」科目について、学生の能動的な学習を促すために、貴学科で行われていることがあれば、ご記入ください。

| ① 全ての「講義」型授業で取り組んでいること | ② 一部の「講義」授業のみで取り組んでいること |
|---|---|
| | |

### 7)-2　学科の達成目標とカリキュラム設計

| ① 学科の教育目標と、各履修科目の達成目標との関連について、明文化されたものがありますか。<br>例）各履修科目のシラバスにおいて、学科の教育目標と科目の達成目標とをひもづけて示している。 | | | |
|---|---|---|---|
| 該当するものに✔ | ある | | 代表的な科目の例のコピーを添付ください。あるいは、Web サイトに公開されている場合は URL をご記入ください。<br>（http://　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| | ない | | |

| ② カリキュラムマップやカリキュラムツリーなど、科目間の関係性を明示し、カリキュラム全体を俯瞰できるシートを作られていますか。 | | | |
|---|---|---|---|
| 該当するものに✔ | ある | | シートのコピーを添付ください。あるいは、Web サイトに公開されている場合は URL をご記入ください。<br>（http://　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| | ない | | |

| ③ 教育課程全体を通しての到達度評価として、標準化されたテスト（英文学科における TOEIC や TOEFL など）を採用されていますか。学内で作成して実施しているものがありますか。 | | | |
|---|---|---|---|
| 該当するものに✔ | ある | | 具体的に、どのようなものか、ご記入ください。 |
| | ない | | |

*以上、ご協力ありがとうございました。*